

平成25年度概算要求における科学技術関係予算の全体ヒアリング議事録(案)
(総務省)

日時：平成24年9月12日（水）13時00分～13時30分

場所：中央合同庁舎4号館12階 共用1208特別会議室

出席者

内閣府：総合科学技術会議 相澤議員、奥村議員、青木議員、中鉢議員

倉持政策統括官、中野大臣官房審議官、吉川大臣官房審議官、大石大臣官房審議官 他

総務省：久保田大臣官房総括審議官、武田消防庁審議官 他

○相澤議員 それでは、只今から総務省の平成25年度概算要求における科学技術関係予算の全体ヒアリングを始めさせていただきます。

本日の議事進行を務めさせていただきます、総合科学技術会議議員の相澤でございます。どうぞよろしくお願い致します。

本日のヒアリングは、総合科学技術会議が進めております科学技術予算関係の改革と申しましょるか、新しい取組と申しますか、この一環でございます。7月13日に各省の政務三役の会合を開催させていただきました。それに続くものでございます。既に各省におかれましては科学技術関係の概算要求を提出されたところという段階でございますので、本日はその取組の基本的な方針についてお伺いをするところでございます。

それでは、事務局より本ヒアリングの進行について説明をお願い致します。

○事務局 総務省さんからの御説明は10分、その後の質疑につきましては15分とさせていただきます。説明、質疑それぞれの終了の2分前に目安として鈴を鳴らさせていただきますので、よろしくお願い致します。

○相澤議員 既に御説明頂く内容については提出頂いていると思いますが、今回の概算要求に向けて総務省内において大きな課題をどう設定されたか、そして、その課題解決に向けた取組がどんなことであったか、それから、概算要求のプランニングに入る時にどういう体制で臨まれたか、そして、具体的なところといたしましては、予算重点化の内容、施策パッケージ等への取組がどうであったか、こういったことを中心にお話し頂ければと思います。

どうぞよろしくお願い致します。

○総務省 ありがとうございます。総務省の総括審議官の久保田でございます。よろしくお願
い致します。

お手元に資料があるかと思いますが、総務省は、御案内の通り情報通信関係、消防関係を担
当しております。全体の総括的な部分と情報通信関係につきまして、私、久保田から、それか
ら、消防関係に特化した部分につきましては、隣におります武田審議官のほうから御説明を申
し上げたいと思います。

目次でございますように、こちらの会議のほうからお示しのありました項目に沿いまして、
それぞれ説明しております。

まず、2ページの全体の動きから御説明をしたいと思います。情報通信分野の課題、消防分
野の課題とございますが、情報通信分野につきましては、囲みにありますところが、全体的な
お話でございます。ICTの利活用を通じましてイノベーションを創出するという。そし
て、誰もが安心・安全な環境の下で参画できるような社会の実現を図るということでございま
す。

具体的な取組は、ここでございますように、日本再生戦略におきまして、「環境の変化に対
応した新産業・新市場の創出」ということ、それから、「イノベーション・情報通信戦略」の
一環としまして、「情報通信技術の徹底的活用と強固な情報通信基盤の確立」が求められてい
るということでございますが、省内でも問題になっておりますのは、ICTが特に最近の国際
競争力で見ましても下げ止まらないということ、それから、社会的課題にICTが対応してい
ないのではないか、そういう問題意識がございます。例えば、私どもの審議会でもそういう御
指摘がございました。

そういうことで、今回、新しい取組といたしましては、最近の動きをみますと、例えば、多
種多量のデータを収集・伝送・解析等をする、いわゆる「ビッグデータ」と総称しております
が、そういうことを通じまして社会的な課題の解決に繋がる、そしてまた、大きな市場を創出
するということが期待されている訳でございます。これ単独で研究をするということではござ
いませんで、当然、各省との連携ということになる訳でございますが、全体的な流れと言いま
すと、ビッグデータの実現に必要なインフラの基盤技術から運用技術まで、一括して取り組む
ような流れに沿って研究開発に新たに着手をする。そして、確実な成果を得たいというような
考え方でございます。

それから、消防分野につきましては、御案内の通り復興対策本部の中で復興の基本方針のと
ころで示されておりますように、東日本大震災の経験を踏まえまして、近い将来発生が懸念さ

れ、また、甚大な被害が予想されております南海トラフ巨大地震、それから、書いてございませんが、首都圏直下型地震等の課題解決の為の研究開発に取り組んでいくということでございます。

なお、こちらに特に記載しておりませんが、省内で情報通信担当部局と消防庁との間で新たな連絡会を8月から設けております。私と武田審議官、言わばツウトップでございますが、ICT分野と消防防災技術の分野の研究開発を進めるにあたりまして、緊密な連携体制を省内でとるということで、いわゆる縦割りの排除に努めていきたいと考えているところでございます。具体的に、今回の予算要求にあたりまして、事前の調整等を行っているところでございます。

情報通信関係の御説明に移りたいと思います。4ページ目をご覧くださいと思います。

重点化の動きでございますが、まず、資源配分方針を踏まえまして、1のアクションプランの関係につきましては、昨年度登録をお認め頂きました施策に引き続き取り組んでいくということでございます。

2つ目の重点施策パッケージにつきましては、今回、会議のほうで示されました重点化の取組⑨の「情報セキュリティ」の関係、これは経済産業省と連携しております。

それから、(2)の重点化取組の⑩「大規模情報(ビッグデータ)」の関係につきましては、文部科学省、経産省と連携しております。特に情報の分析・解析技術につきましては、文部科学省、経産省が御担当になると伺っております。なお、この中で平成19年度からNICTが取り組んできております「ネットワークの仮想化技術」の成果を展開していくということも中に盛り込んでおります。

それから、最後のほうに書いてございます24年度グリーン・イノベーションアクションプランに登録させて頂きました「超高速・低消費電力光ネットワーク」の研究予算も包含したような形での予算として要求しているところでございます。これによりまして、ネットワークのインフラ技術から運用技術まで、言わば一貫通貫で取り組むということでございます。さらには、国際標準化、国際展開に進めてまいりたいと考えております。

なお、(3)は継続でございますが、昨年度重点施策パッケージとしてお認め頂きました、外国政府との関係の国際標準獲得の為の研究プログラムでございます。これにつきましては、今、具体的にEUとの間で研究開発の課題の公募等の作業に取り組んでおります。これにつきましては、今回増額要求をさせて頂いているところでございます。

5ページ目をご覧くださいと思います。予算重点化についてどういうふうに取り組んでいるかの御説明でございます。25年度の概算要求につきましては、ICT分野、科学技術関係と

いうことで558億円、前年度比較で40億円、7.7%の増要求となっております。

下の表にございますように、ハッチングしております558億の中の本省分が271億、N I C T分が287億ということでございますが、特にアクションプランの提案施策につきましては、昨年度が75億円、今年度は提案施策として89億円を計上させて頂いております。

それから、重点施策パッケージにつきましては、先ほどの新規のものもございますが、昨年度1億円でしたが、今年度は51億ということで、当会議で御提案頂きましたアクションプラン、また、重点施策パッケージに対応するものとして、今年度は89億と51億を合わせて140億ということでございますので、全体271億のうち相当な部分、半分を超える部分が資源配分方針を受けましてより重点化を図らせて頂いているということでございます。

6ページ目、やや細かくなりますが、アクションプラン／施策パッケージ等の具体的な施策名を挙げております。アクションプランにつきましては8件、基本的に全て継続でございます。それから、重点施策パッケージの提案につきましては3件でございまして、⑨、⑩に対応するもの、施策名に【新規】とございますが、この2件が新たな要求案件でございます。なお、右のほうに平成24年度予算額、25年度要求額とございますが、24年度予算額につきましては、特にN I C Tの運営費交付金で行っているものにつきまして、具体的な額、執行状況を見まして、それを踏まえた数字ということで記させて頂いております。

それから、25年度の要求額につきましても、運営費交付金全体二百数十億になる訳でございまして、その内数ではあるのですが、例えば航空機S A Rの関係ですと25程度の内数というふうに、全体の中でどのくらいの規模になるかということをおらかじめ絞り込んだ上で数字を示させて頂いておりますので、25程度の内数というような形でございます。この他にも、N I C Tの関係ですと、そういう絞り込みを行った数字をお示しさせて頂いているところでございます。これで大体規模感というものがお分かり頂けるのではないかと思います。

7ページから17ページにつきましては、個別施策でございますので、細かな御説明は省略させて頂きまして、18ページ、N I C Tの関係に移らせて頂きます。先ほど御説明しましたように、N I C T、この独法1つしかございませんので、この関係だけになりますが、297億円の概算要求でございます。内容につきましては、下にございますように、I T戦略本部、それから、当会議の御答申等を踏まえました第3期中期目標に基づいて示させて頂いております。

なお、これを技術的観点から4分野、4領域に重点化させて頂いております。2. の下のほうに4つ書いてございますが、詳しくは19ページにマンガとともにありますが、ネットワーク基盤、ユニバーサルコミュニケーション基盤、電磁波センシング基盤、未来I C T基盤とい

う 4 領域の重点化に取り組んでおります。

それから、3. の研究開発成果でございますが、省に設置しております独立行政法人評価委員会からも良好な評価を得ております。特に下のほうに例示がございますが、マルチコアファイバーにつきましては、世界最速の伝送速度を実現している、それから、電磁波センシングにつきましては、合成開口レーダーの処理速度の能率が非常によくなったということで、いい評価を頂いているところでございます。

それでは、消防関係を御説明致します。

○総務省 それでは、消防関係につきまして、消防庁審議官の武田でございますが、簡潔に御説明させて頂きたいと思っております。

お手元の資料の21ページをお開け頂きたいと思っております。予算の重点化に関しまして、私も消防関係の課題といたしましては、ここにありますように、首都直下型地震、南海トラフ地震などの差し迫っている危険に対して新たに新規4課題、実施予定でございます。石油コンビナート地域の初動対応、その他ここに挙げている4点でございますが、合計1億1,000万の概算要求を予定しているところでございます。

概算要求額の全体につきましては、22ページでございますが、全体として1,000万減の中で重点配分を行っているところでございます。

アクションプラン、23ページであります。ここに挙げた3点につきまして、昨年お認め頂いたものに引き続き取り組むこととしております。

なお、消防庁重点施策パッケージはございません。

以上でございます。

○相澤議員 ありがとうございます。

政務三役の会合で政務三役の方にお願ひしたのは、それぞれの省でトップダウンで省の取り組む方針を出して頂いて、それに基づいて概算要求の案を作って頂く、この仕組みをぜひということでした。

先ほど御説明のありました2ページにあります総務省としての課題の認識、そして、それをどう取り組むかということで整理されているのですが、このことが各課と言いましょか、それぞれ担当するところに対してどのような形で徹底され、それを概算要求のプランニングの段階に活かしていくかということについて進められたことを御説明頂けますでしょうか。

○総務省 政務三役の会合には、森田政務官に出席頂いたと思っております。その後、省内でも予算

編成の為の様々な会議がございますが、省全体としましては、今日は情報通信分野と消防分野を抜粋いたしました。省全体のアクションプランというものがまた別途ございます。今日は冗長になりますので、持ってきませんでした。それを議論する中で、先ほどの御説明は結論めいたことになっておりますが、絞り込みがされております。

政務三役から各部局に対して、こういうところに重点化をすべし、それから、例えば政府全体の会議でこういった方向性が示されているので、それに沿った編成を行うようにという指示がございました。勿論総合科学技術会議の御方針も踏まえた上で、原課までずっと下りてくる訳でございますが、それをまた下から積み上げるという作業を何回か行った上で、今日まとめたような形になっております。そのプロセスの御説明は省略させて頂きましたが、そういったことで当会議の御方針に沿った形での編成作業を進めているところでございます。

○相澤議員 それでは、どうぞ御質問をお願いします。

○奥村議員 二点あるのですが、一点目は2ページに出ている課題認識ですね。セカンドパラグラフに書かれている情報通信審議会の答申、この認識というのは、私もここに来て6年目になるのですが、昔から言われているのです。その下のパラグラフ、「このような中」と、今度はビッグデータの話が出てくるのですが、私の見立ては、常にアメリカを中心とする流れに後手に後手に対応してきてインフラ整備をしているのではないかと。そこに私は非常に危機感を持っています。

恐らく総務省としても所掌の範囲から他の省の管轄まで意見を言うのは難しいかもしれませんが、ICTを使って徹底活用して日本全体の生産性を上げていく上での課題、色々な課題があると思う、産業界に対しても言いたいことがあると思います。ソフト、ハードについても、それから、文科省が所掌するような基礎科学についてもあると思うのです。そういう大きな捉え方をして問題提起をされるべきではないかと私は思いますが、如何でしょうか。そういう動きがあれば我々としてもぜひ応援したい。省を越えて課題認識を共有してICTの徹底利活用をより推進すべきだと私は考えていますが、御見解は如何かということ。

それから、もう一点は4ページ以降、去年からの変更点を明確に出して頂いた、これは大変結構なことで分かりやすいということで、私は大変評価しておりますが、その中でICTの、一番最後の(3)、50倍にふえた。これは実効という面で見るとイメージが湧かないです。私は去年の施策を拝聴してそんなものかなと思っていたのです、金額が。それを50倍にふやしたというので、実効のイメージが湧かないので、これについてはもう少し具体的に御紹介頂けますでしょうか。

以上二点。

○総務省 最初の点につきまして、特にICT利活用、これは議員から御指摘されるまでもなく、私自身もそういう認識を持っております。各省それぞれ行政の中で生かすべきということ、これも10年前から言っておりますが、私どもはそれを利用して頂く為に絶えずインフラ整備等々を行ってきた訳であります、それが十分に活用されていない。それぞれの省の分担はあるのですが。そういう問題点は今回もそういう指摘をこの7月の答申の中でも頂いている訳でございます。これはまた各省に対して発信しております。

ですから、それは引き続きやらなければいけない訳ですが、それとともに、ICTの動きには、例えばビッグデータのことをここに挙げておりますが、細部まで見ますと、決して技術的に真新しいことではなくて、そういう捉え方、新しい考え方がどうなのかということございまして、この捉え方というのは、アメリカというお話がありましたが、各国でこういう考え方はまさに動いているところでございますので、決して遅れているという認識はございません。世界的にはそういう動きが一つありますので、私どもも予算を編成していく上でそういうような視点、そういうような動きを捉えた上での対応をすべきではないかということで、先ほども従来からある施策もその中に包含するということがあったと思いますが、ある意味の組換えというんでしょうか、全体の編成替えみたいなことも含めて、今回御提案させて頂いている、要求させて頂いているということでございます。

それから、各省との関係は、ICT全体の話ということになりますので、利活用まで含めて私どものほうでどうせいという話はなかなかしにくい訳ですが、司令塔たるIT戦略本部がございまして、内閣官房のほうで仕切るということで。これは仕組みとして法律ができておりますので、そういったところとの提案を、私どもは経済産業省等とも一緒にやっております。

それから、ビッグデータについて、例えば文部科学省も経済産業省も同じようなフェーズで研究すべきであるとなっております。先ほど具体的に各省と連携と書いてあったと思いますが、そこはまさに同じような危機感、危機意識を持って今回進めていこうということでございまして、昨年同様ということではございませんで、今回新たな視点、対応を組み込ませて頂いているということでございます。

それからもう一点につきましては、担当課長のほうから御説明させていただきます。

○総務省 重点施策パッケージのところは50倍となっているのは、6ページ目を見て頂きたいのですが、ここに10日に登録させて頂いた重点施策パッケージが掲載されておまして、そのうちビッグデータの部分について41億円、それから、セキュリティの部分については

5.8億円。それから、昨年度登録させて頂きました国際連携のプログラムは1億円だったのが3.8億円ということになっておりまして、50倍と見えたのは、前の1億が50億になった訳ではないということでございます。

なお、このビッグデータについては、上のグリーンイノベーションのところの「フォトニクス」、「超高速」の20億円とともに一緒に組み替えて、セットで推進させていこうというふうに考えたものでございます。

以上です。

○奥村議員 私が少し間違えたのですが、一番下の3.8億円というのは4倍近い訳です。去年に比べて何をふやしたのかということ。対象国をふやしたのか、領域を欧州以外にも展開するのか、その中身なのです。4倍でも随分大きいので。

○総務省 はい。これは、去年はネットワークの部分だけやっていたのを、ワイヤレスとセキュリティと分野を広げて、今、EUとの間で政策協議をしております、彼らもその分野については一緒にやっていって、例えばITUとかいう国際標準に出していかなければいけないと。

○奥村議員 分かりました。ありがとう。

○相澤議員 その他、如何でしょうか。どうぞ。

○中鉢議員 ICTが言われて久しい訳ですが、勿論企業もICTの利活用ということで新しいビジネスを作ろうとやってきている、こういう動きもまた久しいのですが。今回、ICTの徹底的利活用と、この「徹底」というところがみそなのかなというのと、この徹底というのを国民目線で、前年の違いというのが資料にございますが、国民に「徹底」というのを言おうとすると、どのような表現になるのかなと。少し言うと、新市場、新産業を創出する、或いは、世代・地域にかかわらない、安心してやれるということ、さっそういふうになるのですが、それは前からも言われていることで、特にこれを国民へのメッセージと考えたらどのような表現になりますか、少しお聞かせ願いたいのですが。

○総務省 なかなか御質問で困っているのですが、今回、新しい視点というのは変かもしれませんが、先ほどの「国際競争力が下げ止まらない」という表現、これは少し新しいと思うのですが、今回の答申の中でも「崖っぷちである」という言い方までして、危機感を煽るのではありませんが、危機意識を色々な分野の方に、色々な世代の方に持って頂かなければいけないということがメッセージとして込められております。ですから、従来と多分同じようなこと、或いは、延長線の対応では、もはや本当に崖から転落してしまうのではないかと、そういう思いもございまして。そこは役所が或いは審議会で作る文章でありますので、あまり過激な表現ぶ

りは避けられた部分もございりますが、相当な危機感を持っているということは御理解頂きたいと思えます。

それも今回色々な場で発信していきたいと思っております。ですから、中鉢議員がおっしゃるように、具体的にどういう表現でどういうふうにとすることは、今そうしたツールを持ち合わせていないのですが、思いの外 I C T に対する期待はあるのだが、使われるべきところで使われていない。これが本当に危機的な状況になってきているというふうな認識でございします。

お答えになっていなく申し訳ございません。

○中鉢議員 いえ、ありがとうございます。総合科学技術会議の中でも国民へのメッセージとか、そういうものを意識したメッセージの出し方になっているようですので、ヒントになればと思ったのですが。産業的にみますと、I T に対する、2000年代に、多少早過ぎたのか、或いはインフラが整っていなかったのか、そういうふうにして一生懸命やったのですが、何年かたって、今になってみると国際競争力が落ちてきていると、現実には。その間にビハインドしたのだと思えます。

今の久保田総括審議官のお話だと、キャッチアップモードなのかもしれません、率直に言うとして諸外国に対して。こういう認識の下で事をやらないと、最後の言葉として「徹底」というと、言葉によってやり方が不十分で、最後の最後までやり尽くすぞというふうな感じに産業界はなっていない。今から始まる部分もあるということの整理が必要なのかという感じがしますね。隣の国にも多少意識しなければいけないところもありますし。必ずしも日本がそういうものが進んではない。おっしゃるお通りだと思いますね。ここを冷静にやって、話がビッグデータのほうにいったらと……。

○総務省 これは単なる例であります。

○中鉢議員 何かやり残していることがまだあるのではないかとこのころがあつて。そういう印象でございします。

○相澤議員 只今のことにも関連するのですが、総務省は2年ほど前に特に I C T を温暖化対策に徹底的に応用するのだということで、その時の数字が30%だったのでしょうか。そこで、私がお伺いしたいのは、総務省はいつも大括り的な目標を出されるのですが、それを具体的に施策レベルでどう展開されるかということになると、そこがなかなか見にくい。この辺のところは御事情があるのか、その辺の基本的な考え方と申しませうか、そういうところは如何でございませうか。

○総務省 色々御指摘と言いますか、御指導ありがとうございます。先ほどの例えば温暖化の

対策で言えば、今回、6ページにございますグリーンイノベーションの4件は継続させて頂いておりますが、この中の上から3つ目のフォトニックの関係などはまさにそれだと思うのですね。光化を進めることで電力消費を減らしていくということなのですが、最近ですと、電力事情の問題等もあり、これをさらに進めなければいけないということでもあります。

2年ほど前、震災が起こる前だと思うのですが、危機感という意味ではそのころよりさらに上回ってきており、さらに厳しい状況になっておりますので、相澤議員のおっしゃるような何か事情があって目標を変えるというようなことは特にございませんで、大きな目標はそのまま維持しておりますし、その中で具体的な研究開発項目としては継続しているということもありますが、光というものをひとつ大きな主軸に置いているところでございます。メッセージとしては、光化を進めるということは2年前も4年前も恐らく変わっていないところだと思いますし、エネルギー消費をいかにして減らしていくべきかという意味でも、そこも変わっていないのではないかと考えております。表現ぶりにつきましては色々と工夫をしていきたいと思えます。

○相澤議員 それでは、時間になりましたので、以上とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

○総務省 どうもありがとうございました。よろしくお願ひ致します。

以上